

Child Abuse Prevention Network MIYAGI

キャプネット・みやぎ Newsletter



No.43

2015年2月

子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ

〒980-0812 宮城県仙台市青葉区片平 1-5-20-5F 半澤・村松法律事務所内

TEL/FAX 022-265-8867 mail zimukyoku@capnetmiyagi.org

URL <http://capnetmiyagi.org>

「子ども虐待防止世界会議 名古屋 2014」ご報告

日時：2014.9.14（日）～ 9.17（水）

会場：名古屋国際会議場

メインテーマ：子ども中心の社会に向けて：過去から学び、未来に向けて行動しよう

サブテーマ：1) 子ども虐待に対応する社会制度の発展への挑戦

2) 世代間連鎖を断つ子どもと家族のケア

3) 妊娠期からの親子支援

4) 子ども虐待の予防と虐待の被害者の治療など、

虐待対応に関わる機関・人材の育成

5) 災害の被害を受けた子どもたちのための社会制度の開発

報告者

事務局長 鈴木俊博

日本で初めての子どもの虐待防止世界会議が昨年9月に名古屋で開催された。今回は国内で毎年開催されている日本子どもの虐待防止学会と併せての開催となった。

こうした学会開催に伴う主催者側の実務は、筆舌に尽くせない苦労がある。子どもの虐待防止ネットワークあいちをはじめ、子どもの虐待防止民間ネットワークの仲間や学会役員の皆さまにまずは敬意を表したい。

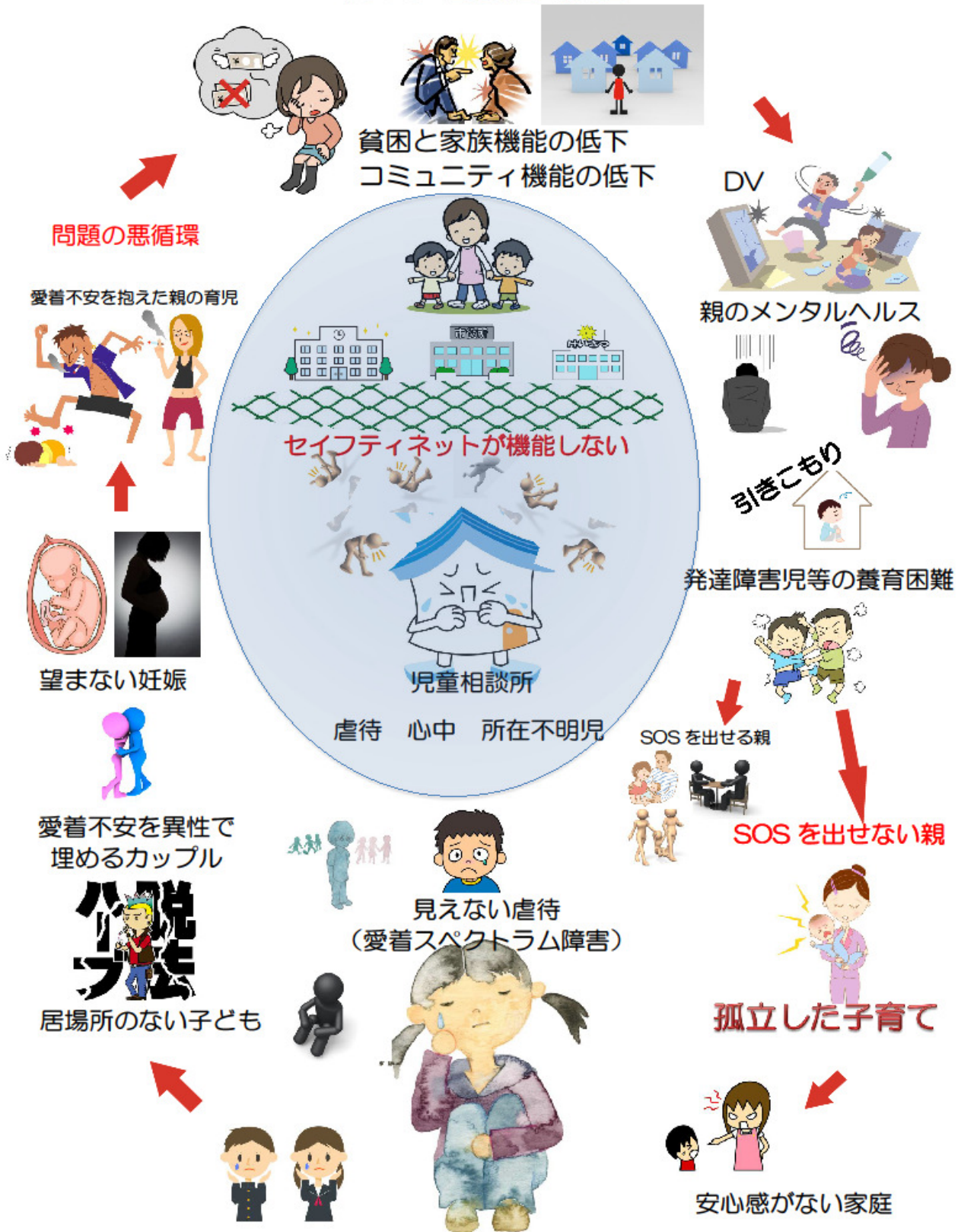
キャプネット・みやぎでは毎年開催される日本子どもの虐待防止学会においてパネル展示発表を続けてきた。今回は世界会議ということもあり、日本の児童虐待問題を俯瞰的に表すパネルを制作してみた。

キャプネット・みやぎの活動を15年間続けてきたひとつの視点としてご覧頂きたい。

パネル原稿は下記の通り、問題を循環図として表している。

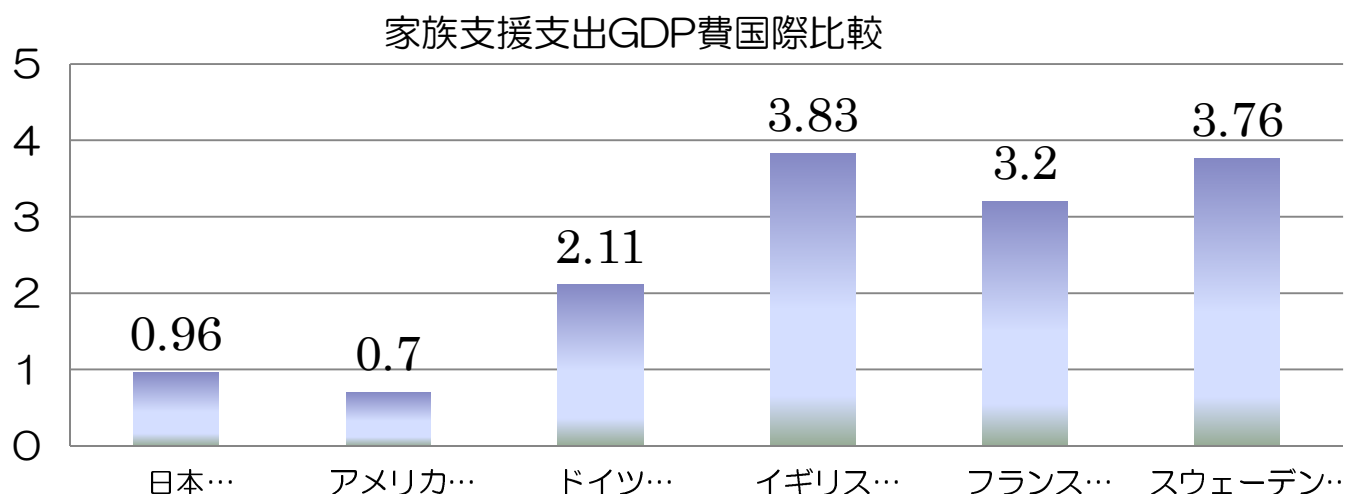
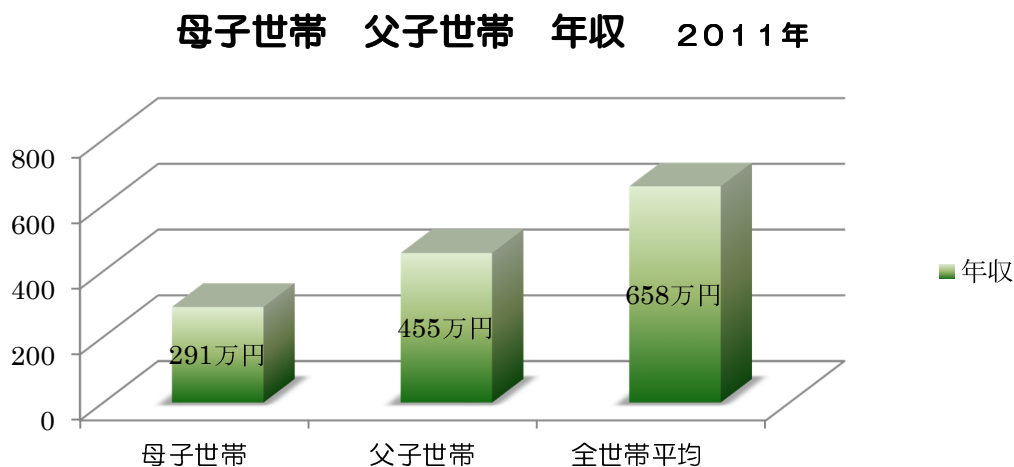
子育ての危機は人類の危機

日本子どもの虐待問題 俯瞰図



1. 貧困と家族機能、コミュニティ機能の低下

循環の始まりは標記のテーマとした。子どもの貧困、母子家庭の貧困の問題は深刻であることを統計グラフで「母子世帯年収グラフ」「家庭支援支出グラフ」で表した。



親のメンタルヘルス、子どもの養育困難、DVの問題など家族を巡る問題がこの経済的基盤の弱さに拍車をかけるストレスとなっている。家族の機能やコミュニティの機能がこの問題に対応しきれずに深刻化している現状を表している。

2. SOS を出せない

1で示したような背景があって子どもの虐待問題は発生している。しかし現在問題なのは困ったときに誰かの力を借りて相談するという力が親や家族に低下していることである。家族機能で最も重要な力が今失われている。その結果として孤立した子育てが問題を重度化している。孤立の根底に何があるのかを見極めることが重要である。一方で相談にたどり着いても社会がこの問題を支えきれないケースが散見されていることが、厚生労働省の「子どもの虐待による死亡事例等の検証結果」に表されている。児童相談所はケースを受理するだけで手一杯となっている。

3. 愛着スペクトラム障害

精神科医の岡田尊司氏は「愛着障害～子ども時代を引きずる人々～」の著書の中で「愛着スペクトラム障害」という視点を提唱している。

脳の器質的障害といわれる発達障害、とりわけ自閉症スペクトラム障害や大人のアスペルガー症候群が話題となり、精神科の外来に訪れる人が増えている。

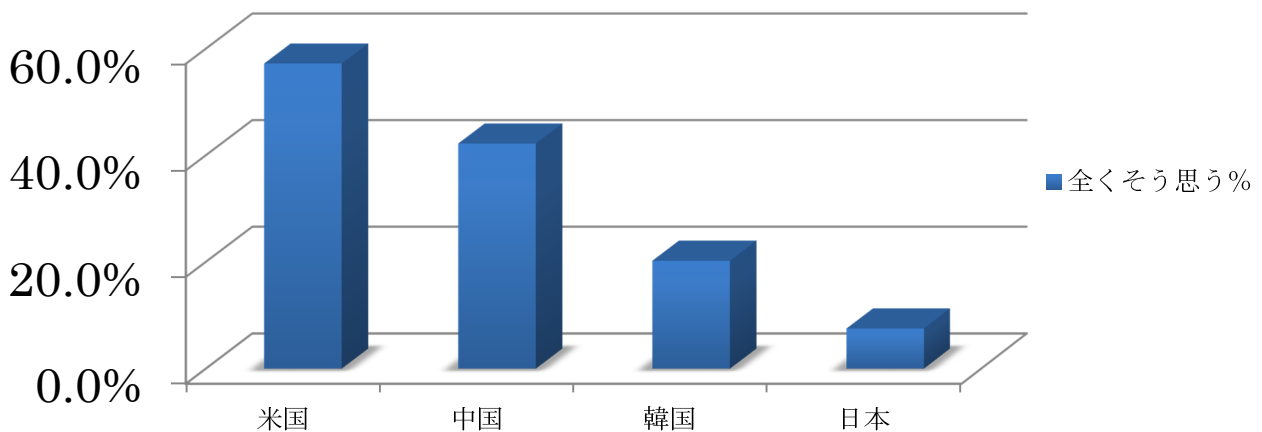
岡田氏はこの発達障害の問題と愛着障害の問題の関連性について詳しく述べている。いずれの診断であってもまわりの関わり方で改善することを報告している。

否定と禁止と命令が多い親に育てられた子どもと肯定と尊重と話し合いを大切に育てられた子どもがやがて大人になり、物事をどう捉えるかという認知に大きな違いが生じる事は事実である。前者のような生育歴による愛着タイプを不安定型といわれる。この認知の違いは感情や行動そして対人関係全般に「生きにくさ」の問題として現れる。障害とは言えなくてもこの「生きにくさ」の問題を抱えた人々が増えており、これを帯状に捉えて「愛着スペクトラム障害」としている。

親の養育機能のこうした変化は単に子どもへの影響にとどまらない。子育てが危機は人の成長や発達に直結する問題である。このパネルのタイトルを「子育てに危機は人類の危機」とした所以はここにある。

こうした愛着の問題を数値として表すのは難しい。しかし4ヶ国の高校生に自分が価値のある人間と思うかを問うた意識調査のグラフを示し、日本の高校生の自己肯定感がいかに低いかの指標とした。

高校生の意識調査 「自分が価値ある人間と思うか」
【全くそう思う】と答えた回答率比較
財団法人 日本青少年研究所



～次号に続く～

- 個人テーマ： 1) 支援の実際を知る
2) 支援団体間の連携について学ぶ



●本部主催講演

「子ども虐待への挑戦：アメリカ合衆国の歴史」

講師：キャロル・ジェニー氏

(ワシントン州立大学シアトル子ども病院 子ども虐待医学奨学基金 特別研究員奨学基金 代表)

内容：紀元前の時代～紀元後 20 世紀の間、人類は虐待を「善」と捉えていた。しかし 20 世紀になってようやく虐待は「悪」と捉えられるようになり、今日アメリカでは多機関連携チーム (MDT) が機能し小児科学の副専門領域として“子ども虐待医学”が確立されている。今後は、家族が社会的に崩壊してきたことを踏まえ、よりきめ細やかな支援が必要とされるだろう。

●公募シンポジウム③ 家族再統合のための援助事業の取り組み ～「東京方式」の展開～

発表 1 「東京方式」の展開

発表 2 父親グループ「やっほー」の 10 年

発表 3 分離された母親へのケアグループで何ができたか？

発表 4 多様な援助プログラムから見えてきた家族再統合支援のあり方

内容：中央児童相談所が実施する家族再統合のための援助事業「東京方式」に関する報告。父親グループ・母親グループ・親子合同グループ・家族カウンセリングの 4 プログラムが展開されており、多角的なアセスメントを通して家族のニーズ・状況にあった支援の組み立てが可能となっている。

●基調講演「子どもに対する暴力の終焉を目指して ～世界の現状と地域社会の行動責任～」

講師：スーザン・ビッセル氏

(国連児童基金 (UNICEF) 計画部門アソシエイト・ディレクター/子どもの保護セクションチーフ)

内容：子どもに対する暴力に国境はなく、それは「7つの現実」としてまとめることができる。そしてそれらには「6つの戦略」が実行されており、それらは確実に機能している。まだ機能していない“未知なる戦略”も存在していると考えられることから、我々は分野を超えて検討することで見えないものを見るようにする作業が求められている。

●JaSPCAN 一般演題 (口演) ① 児童養護施設における取り組み

発表 1 児童養護施設において福祉職が看護師に求める役割

発表 2 児童養護施設退所後の社会的剥奪状況 ～6つの退所後実態調査から～

発表 3 児童養護施設入所児童の描くバウムテストの継時的変化

発表 4 児童養護施設入所児童への学習支援について

発表 5 児童養護施設の子どもたちへタブレットを使った学習支援

発表 6 児童養護施設における「性・暴力・生き立ち」に関する心理教育プログラムの取り組み

内容：児童養護施設の入所児童・退所児童・福祉職職員を対象とした研究の発表。

発表 4・5 “入所児童の学業は不振になりやすい”という現実を踏まえ、教員を目指す学生やタブレット端末を用いて個別的な学習支援を行なった。その結果、学力の向上以外にも様々な効果があった。

発表 6 幼児から中学生を対象に、産道体験やプライベートパーツ・第 2 次性徴についての話を通して性・暴力・生き立ちに関する心理教育プログラムを行なった。その結果、自己肯定感・自

信・モチベーションの向上が見られるようになった。

発表3 平均年齢9.3歳の男児6名を対象にバウムテストを行ない、1年後の結果と比較した。児童によっては波線の多い描写が濃くはっきりとした線の描写に変わるといった変化が見られたが、個人差が大きいため慎重に検討する必要がある。

●JaSPCAN 一般演題（口演）② 専門性向上・人材育成

発表1 児童虐待防止のための市町村支援の実態

発表2 「CITIES」の挑戦1～首都圏の単一児相における特有の困難、そして連携と可能性～

発表3 児童福祉司の業務上の困難性とその対処スキルについての研究Ⅱ

発表4 専門職の養成における多様性と役割構築に向けた試み

発表5 アウトリーチによる子ども虐待の予防 ～日本一の高密都市で孤立から家庭を守るために～

内容:発表1 要保護児童対策地域協議会で市町村が主たる担当機関となった新規事例200例について「在宅アセスメント指標」を用いて支援方法を検討・実行し、その支援状況を15か月間に渡って調査した。その結果、時が経つにつれて支援項目が増え、支援方法をより幅広く展開できていくことがわかった。

発表2 首都圏において市単独の児童相談所単一児相をもつ千葉市・さいたま市・横須賀市・相模原市の職員有志が情報交換・研究会「CITIES」を立ち上げた。単一児相の強みを検討した結果、関係機関との連携によって子ども虐待のケースに対する一貫した支援が実現できることが挙げられた。

<感想>

キャロル・ジェニー氏の講演を聞き、紀元前の時代から子ども虐待は当たり前のことであったと知って驚いた。この世に生を受けたすべての「いのち」が安心して暮らせるようになるには、もしかしたら同じくらいの時間、つまり何千年という長さの時間が必要かもしれない。現にスーザン・ビッセル氏の言うように暴力を容認する根強い社会規範が存在するし、それをくつがえすことは容易ではないだろう。社会の意識を変えることほど難しいことはない。しかし、だからといって諦めてしまえば、社会の意識は永久に変わらない。嘆いているだけでは何も変わらないのである。スーザン・ビッセル氏が続けて言うように、国境を越えた「6つの戦略」が実行されており、それらは確実に機能している。公募シンポジウムや一般演題を通して支援や連携の実際を知り、日本における「戦略」の一端を知ることができた。

今後、私がどのような立場で子ども虐待問題と関わっていくのかは未知数である。5年前と現在では関わり方が異なるし、現在と5年後でも関わり方は異なっているだろう。しかしおそらく確実なことは、今後も子ども虐待問題への関心は消えないということだ。

学会への参加を通して、どのような関わり方であれ必要となってくる「諦めてはいけない」ということを学んだ。私なりの「戦略」を、今後も引き続き実行していきたい。

●スーザン・ビッセル氏の講演から

「7つの現実」

1. 15～19歳児の死亡理由の1位は「殺人」である
2. 暴力の最も普遍的な形は家庭で起きている
3. 「いじめ」は日常的なことであり、所得水準や場所は関係がない
4. 1億2000万人の少女が性的虐待を受けており、少年も被害者になっている
5. 子ども（15～19歳児）の花嫁は、暴力にあいやすい
6. 暴力の被害を自分から通報することはない（他者に知られることを恥と思っている）
7. 暴力を容認する根強い社会規範がある

「6つの戦略」

1. 親・家族への支援をする
2. 困難をマネジメントできるよう支援する
3. 態度・社会規範を変える
4. 子どものための支援サービスをつくる
5. 子どもを保護する法律・予算をつくる
6. データの収集とリサーチを行なう

平成26年9月～12月 活動報告

毎月第二土曜日相談員定例会
毎週木曜日母親グループ

- 9月 7日・21日・28日 第9回コモンセンスペアレンティング①～③
12日 婦人保護事業関係機関ネットワーク連絡協議会 出席
13日～14日 第20回日本子どもの虐待防止学会 名古屋学術集会
20日 運営委員会
23日 セクシャリティーと家族問題シンポジウム 講師派遣
- 10月 4日 第17期電話相談員養成講座①
5日・12日・18日 第9回コモンセンスペアレンティング④～⑥
18日 第17期電話相談員養成講座②
21日 個別ケース面接
23日 泉ヶ丘小学校4学年行事「いのちの大切さ」授業 講師派遣
24日 泉区ケース相談
25日 第17期電話相談員養成講座③ ④
27日 太白区要保護児童対策地域協議会 実務者会議
28日 若林区要保護児童対策地域協議会 実務者会議
- 11月 1日 第17期電話相談員養成講座⑤
7日 若林区要保護児童対策地域協議会 個別ケース会議
8日 拡大運営委員会
11日 ホームスタート仙台いずみ ケーススーパーバイズ
17日 富谷町虐待防止連絡協議会 第2回児童部会実務者会議
20日 のびすく仙台 グループ相談 講師派遣
24日 県北児童虐待防止シンポジウム 参加
27日 仙台市主任児童委員研修会 講師派遣
29日 仙台市立病院児童虐待防止委員会主催研修会 参加
- 12月 3日 大崎市民病院虐待防止研修会 講師派遣
6日 第17期電話相談員養成専門講座①
6日 運営委員会
18日 ホームスタート仙台いずみ 運営委員会
20日 第17期電話相談員養成専門講座②
25日 色麻町要保護児童対策地域協議会研修会 講師派遣

第9回 コモンセンスペアレンティング

楽になりたい子育て 「学びと練習」(全6回)

対象：子どもとの関係に自信を持ちたいお母様、お父様

講師：キャプネットみやぎ CSP トレーナー

場所：仙台市福祉プラザ

日程：2015年2月2日(月)、9日(月)、17日(火)、24日(火)、3月2日(月)、9日(月)

会員更新 ご寄附 ありがとうございます。

平成26年9月～12月

順不同 敬称略

<個人会員>

佐藤佐知子 佐藤和枝 佐藤律子 関根ふじ子 堺武男 大沼昭 佐藤裕子 町田晶子
我妻恵 我妻健太 古久保和子 阿部郁夫 佐々木房江 鈴木忠司 三星容子 山本蒔子
武田靖 西澤晴代 石島文香 佐藤京子 池田ミチ 山内礼子 高橋晃子 穂積雅美
大庭さちゑ 塚本二郎 須藤真由美 矢嶋加代子 菊池陽子 亘理弘子 石黒千絵
久保田紀子 佐竹節子

<フラワー会員>

大須賀常三郎 我妻要子 長谷川桂子 佐藤洋子 吉田淳子 鈴木とき子 田澤二三代
小田嶋礼子 高橋禎子 岩井紘子 鈴木俊博

<団体>

NPO 法人チャイルドラインみやぎ 保育所新田こぼと園

<特別>

林昌院 佐藤知妙 村田祐二

<寄付>

佐藤和枝 三浦淳子 佐藤洋子 吉田淳子 小田嶋礼子

2014年10月1日から
キャプネット・みやぎ 電話相談の**受付時間**が変わりました。

022-265-8866

月曜日～土曜日までの10時～13時

日祭日・年末年始・お盆期間はお休みです。

全国子育て・虐待防止ホットラインはこれまで通りです。

0570-011-077

月曜日～土曜日 10:00～17:00

ナビダイヤル料金 固定/3分8.5円 携帯/3分10円